

さくらサイエンスクラブ(SSC)日本同窓会第2回総会

科学技術振興機構(JST)

科学技術振興機構(JST)は11月11日、東京大学弥生講堂一条ホールにおいて「さくらサイエンスクラブ(SSC)5周年シンポジウム」を開催したが、これに併せて、SSCP招へい者で留学や就職のために再来日している者で構成される日本さくらサイエンスクラブ(SSC)同窓会の第2回総会を同日の午前中に行った。

現地SSC同窓会と日本同窓会の設立

これまでにSSCPでアジアを中心とした国・地域から日本に招へいた約3万人の若手人材は、その同窓会組織であるSSCのメンバーとして登録されている。JSTでは、各国・地域毎にSSCメンバーの同窓会活動を活性化するために「現地SSC同窓会」の立ち上げを応援しており、既に昨年よりインド(2018年10月)、スリランカ(今年2月)、ベトナム(同年3月)、マレーシア(同年10月)、インドネシア(同年12月予定)において現地第1回の同窓会総会を開



催し、現地SSC同窓会組織の創設を支援してきた。また、これらの活動に先立ち2016年9月に、JSTは再来日者を対象に、



日本SSC同窓会総会の集合写真

第1回の日本同窓会総会を開催している。ここでは主幹事1人と8人の幹事が選出されたが、最近までに主幹事を含む多くの幹事が母国に帰国し、新たに幹事団の選出が必要となっていた。

日本同窓会第2回総会

11月11日の第2回総会には、7人の日本同窓会幹事候補を含む多くの日本同窓会会員が参集した。また、この会合にはインド、ベトナムおよびマレーシアの同窓会の主幹事3人とスリランカ同窓会の主幹事代理、さらには中国同窓会のメンバー1人が出席した。また、派遣機関を代表してインドおよびタイの著名な大学教授とベトナム教育訓練省の関係者が参加した。

総会では、最初に沖村憲樹JST上席フェローより、SSC同窓会活動を活発にするため、本日の参加者の議論に期待するとともに、その成果を積極的に取り入れたいとの冒頭挨拶がなされた。

その後、同窓会前日の幹事会で選ばれた7人の幹事候補が幹事として承認された。主幹事には第1回総会より幹事職にあったマレーシア出身のライ・ハング・ウエイ氏が選任され、それまで議事進行を担っていた黒木慎一JST中国総合研究・さくらサイエンスセンター副センター長より議長役が受け渡された。ウエイ氏の議事進行の下、会員等による近況報告、SSCPの活用状況、各国現地同窓会活動等の報告が行われた後に、同窓会活動の活性化について全体討議がなされた。

今回、SSC同窓会としては、初めての各国現地同窓会代表や各国の派遣機関等の代表が集う会合となり、日本同窓会の視点のみならず、各国同窓会の視点等、幅広い観点から多様な同窓会活動に関する提案、意見、示唆が提起され、大変活発で精力的な意見交換が行われた。

最後に、黒木副センター長より、本日の議論を踏まえ、日本および各国同窓会幹事と密接な連絡を継続し、幹事の主体的取組みの下に一步一步、提案、意見の具体化に務めていくとのまとめの発言があった。

総会後の懇談

総会後の懇談会の中で甲田彰JST理事より「大変有意義かつ実りある議論が行われお祝い申し上げるとともに、SSC同窓会活動の一層の発展に期待する」との挨拶があった。懇談会では、日本同窓会会員と各国の現地同窓会の代表等の中でホットな議論や記念撮影が行われ親交が深められた。